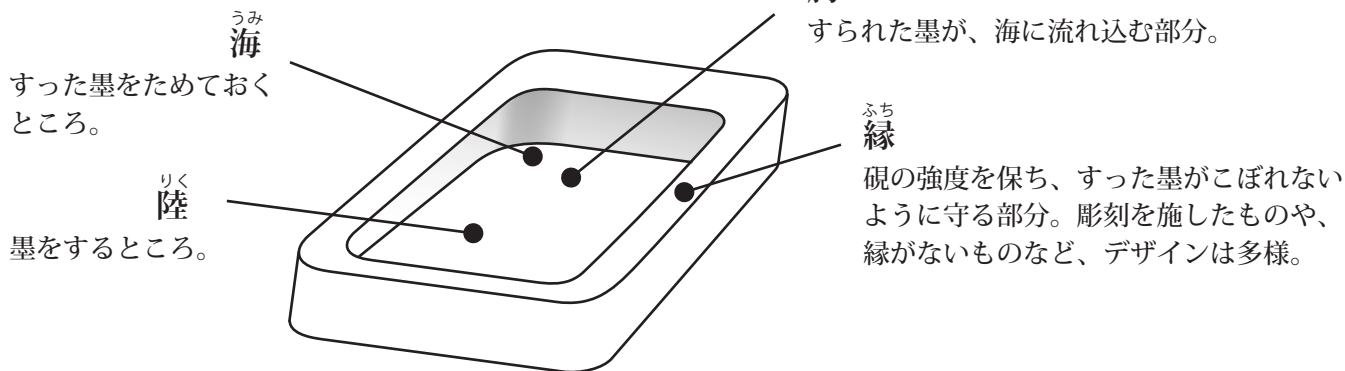


堀尾信夫の挑戦

鑑賞ガイド

硯の作品を鑑賞するには、どんなところに目を止めると良いのでしょうか？ 手がかりになる情報とみどころを、さくっと紹介します。

硯の各部位



作品として鑑賞する時も、墨をする道具としての硯がイメージできるのが、伝統工芸の作品らしさです。

硯の制作道具



丸のみ、角のみ、小刀、たがね、砥石など。多種多様な道具を使い分けます。

赤間関硯の できるまで



採石

赤間関硯の材料、赤間石は、宇部市の山中で採石されます。



形をととのえる

原石の表裏を大のみで平らに削り、全体が平滑になるまで磨く。



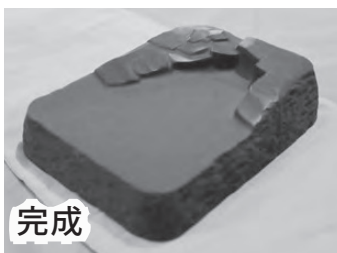
図案を彫る

初めは大まかに、徐々に詳細に、のみを使い分けながら図案を彫る。

ほぼ平らにした上で海と陸の境を決め、傾斜をなだらかに整える。縁の彫刻も仕上げる。



海と陸を彫る



完成

一週間ほど養生して、完成。



漆仕上げ

陸と海には漆がかからないよう型紙をのせ、漆を塗布する。赤間石の粉にベンガラなどを混ぜた粉を全体にまぶし、艶が出るまで布で磨き上げる。



銘を入れる

小刀で銘を彫る。



磨き

桶に水を張り、大きさやきめの違う砥石を使って磨く。

堀尾信夫の 挑戦 鑑賞ガイド

硯の作品を鑑賞する時は、ここに注目！ 作品ごとの違いや魅力が、ぐっと見えてくるはずです。

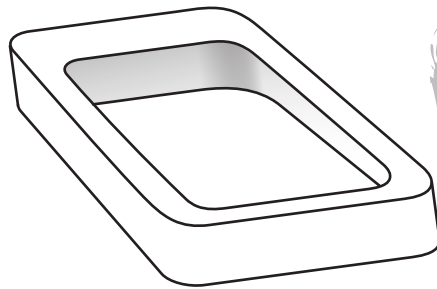
硯のみどころ

表面は

ツヤツヤ？
ざらざら？

墨をするところには漆をかけないため、陸と海の部分表面にはざらつきがあります。縁や側面には漆で艶を出します。

硯の厚みは
分厚い？
薄い？



縁が

ある？
ない？

縁があればかっちりとした安定した感じに、縁なしにすれば広がりのある感じになります。

全体のボリュームに対し、厚ければ重厚感が増し、薄ければ軽快な感じになります。

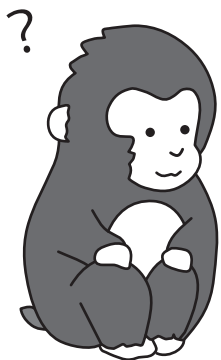
角の形は
鋭い？

丸みを帯びている？

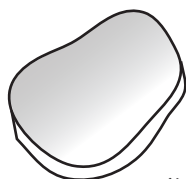
シャープで洗練された感じを出したり、柔らかく温かみのある感じを与えたりと、硯全体の印象を左右します。

硯のみどころ

硯の作品の多くに「〇〇研」という名前がつけられています。「研」の字は、「硯」と同じ「けん」の音を持ち、「すずり」の意味があります。元々「研磨」のように「みがく」という意味があり、のみで削ったのち砥石でみがいて仕上げる硯に相応しい名称です。



にてる？

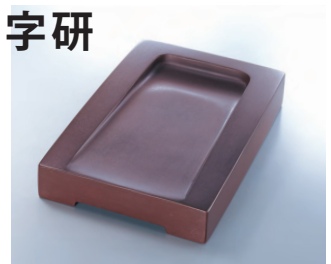


猿面研

江戸時代の硯の教科書『和漢研譜』にも掲載されている、伝統的な図案です。

身近なものをかたどった作品や、ユーモラスな命名も。

風字研



堀尾信夫《風字研》1973年
作家蔵（下関市立美術館寄託）